

# SHIN CLUB 219

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「moana (尾山台プロジェクト)」

撮影：西川公朗

今月のトーク/monthly talk

## レンガタイルの魅力

写真はこのたび、尾山台に建ち上がった賃貸集合住宅です。夕景が建物の光と影を際立たせています。外壁には、特注の珧器質(せっきしつ)タイルが貼られており、閑静な住宅街にさらに気品のある雰囲気が醸し出されています。このタイルを生み出しているのが、兵庫県尼崎市に本社を置く、織部製陶株式会社。復元された、三菱一号館美術館や NICCA イノベーションセンターなど、そのお仕事ぶりは全国各地で目にする事ができます。営業部の古澤竜男主任に、四谷にある東京支店でお話を伺いました。

「弊社は創立 40 周年を迎えるタイルメーカーです。すべて現場ごとに受注生産を行っています。設計の先生と打ち合わせを重ね、職人が 1 枚 1 枚手仕事で表情を付けています。

レンガの焼成は、安定的に大量生産できる酸化焼成を行うことが多いのですが、弊社では還元焼成とあって、器や焼き物の焼き方と同じ方法を行っています。釜に送る酸素を絞る、タイルの土の中の酸素を引き出すことで、焼き物の表情が出て、タイルの色むら、色幅を出すものです。

工場は岐阜県の瑞浪にあり、織部焼や志野焼で知られる美濃焼の産地です。その周辺は鉄分の少ない土がとれます。常滑などは土が赤いのですが、多治見や瑞浪などの土は、焼くと白くなります。そのため色を付けやすく、タイルメーカーの窯元が多いです。

今回は、厚みの違うタイルを 2 種類作り、試作を重ねて、打ち合わせの中で

色味、サイズを決めていきました。1 枚ずつ職人さんが貼り、目地も骨材入りの目地モルタルをチューブを使って入れて、ラフな面を出しました。

また今回は「弾性接着材貼り」という方法を取っており、断熱ボードとタイルの間に発泡系エポキシ系接着材を入れて、さらに接着性を高めています。最近は、『3.11』の震災の時にボンド貼りのレンガが落ちていなかったということで、この方法も増えています。

見本と本焼きで全く同じというわけにはいかないのですが、こちらも先生のこだわりで経験で応えています。還元焼成は、1 色の調合で色幅が自然と出るの、多くの色をミックスインしていくより、統一感のあるパリエーションを生み出すことができます。また、焼いたものを工場出荷する時点でパリエーションを考えて詰めていくので、施工現場で職人さんが組み合わせに悩むということが少なくなります」と古澤主任。

社名の「織部」は今から約 440 年前の武将茶人で、千利休を師に持ち、織田信長、豊臣秀吉らに仕え、安土桃山時代を生き抜いた古田織部に由来します。「やきもの」としての織部焼は、一つとして同じものがなく、斬新で自由なスタイルが 21 世紀を迎えた現代においても人々を魅了し続けています。その精神を受け継ぎ、職人の手から生み出される唯一無二の質の高い作品を創作し続けていかれるとのことです。

## moana (尾山台プロジェクト)

### 外断熱と外壁の美しさを生み出すレンガタイル

東急大井町線「尾山台」駅から徒歩3分、平坦な道なので商店街を抜けた閑静な住宅街に、地下1階、地上3階の4層からなる共同住宅(賃貸)を計画した。

建物の構成は、北側の第二種高度斜線へ対応するため、各層のボリュームをずらす操作を基本としている。そのボリュームをなぞるように外部に開かれた印象の共用廊下を配置している。この操作により、各メゾネット住戸は南に面する居室と北に面する居室を有することになる。(写真①)

仕様の決定については、「次の世代に建物を引き継ぐことを考えたい」という発注者の思いを前提に組み立てた。外壁には、EPS(発泡プラスチック断熱材)による外断熱工法を採用し、その上に特製珧器質(せっきしつ)タイルを張り付けている。素朴な表情を持つ珧器質タイルが時間の経過と共に味わいを増していく様子と、次の世代に建物が引き継がれていく性格を重ね合わせている。技術的には、タイルの荷重がEPSに与える応力や施工性について構造的な検討や実験を行い、安全性の確認をメーカー、現場と共に試行錯誤した。

外側で断熱することにより、内側はコンクリート化粧打放しで仕上げている。(写真⑤⑥)このコンクリートが蓄熱体となり、太陽からの熱、冷暖房の熱を蓄え、温度変化の緩やかな内部環境と省エネルギーをもたらしている。また維持管理の面でコンクリートの壁は優位性があり、入居者の入れ替わりへの対応にも配慮されている。

昔からあったような素朴な佇まいが、街の価値を高め、永く愛されていく。その評価は、現段階では難しく、時間の経過と共に感じていく必要があるだろう。

(小山貴弘氏/コヤマアトリエ 談)



所在地：世田谷区等々力2丁目  
交通：東急大井町線 尾山台駅  
構造：RC造 規模：地下1階、地上3階 用途：共同住宅 総戸数6戸  
施工担当：高沢 竣工：2018年4月 撮影：西川公朗

①正面全景②北側から臨む③建物奥から前面道路方向を臨む④2階南側共用廊下⑤道路側1階住戸LDK⑥ドライエリアに面するB1階の洋室⑦外壁は特製珧器質タイルの「クレイマイスター」。厚みの異なるタイルの連続が壁面に繊細な陰影を与えている

## 建築のハードとソフトを両立させる

小山貴弘／コヤマアトリエ



佐賀の家

# Takahiro Koyama

今月は「尾山台プロジェクト」の設計者、小山貴弘氏にお話を伺いました。小山氏は、前川國男建築設計事務所出身の太宇根弘司(元 JIA 会長)氏の事務所に勤務され、町田文学館をはじめ多くの公共建築の設計監理に従事、「建築は莫大な資源を使い、出来上がってからは多くのエネルギーを消費する。このことに最大限の注意を払うべき」という教えを受け継いでいるとおっしゃいます。

— 今回の建物では、コンクリートにレンガタイルを施し、地域の文化的な雰囲気や大事にしながら、さらに長寿命を考えたらうで、省エネにつながる建物を造られたとのことですね。

小山：クライアントは個人の方で、敷地をコインパーキングとして活用している時期にご相談をいただきました。ご家族との会話を重ねながら「建築の目的」についてイメージを膨らましていきました。そのイメージを具体的に計画していく中で「外断熱」や「レンガタイルの外壁」という設計にまともっていきました。設計は順調に進みましたが、融資事務の過程では苦労しました。銀行は、建築物の性能を評価する基準がなく「コンクリート造の賃貸共同住宅」でしかありません。そんな中、住宅金融支援機構での考え方に共感してくれる担当者との出会いがあり、実現できる運びとなりました。金融機関を含め、理解者を増やしていく活動の必要性を改めて感じました。

— 印象深いレンガタイルですね。

小山：レンガタイルは、設計段階から「織部製陶」の皆さんに協力いただきながら進めました。私のイメージを工場の職人に伝え、土のこと、焼成のこと、テクスチャーを与える技術など沢山のことを教わりました。とても奥が深い領域なので、これからもアイデアを彼らにぶつけながら試行錯誤していきたいと思っています。

— 保育園の建築コンサルタントはどのような活動をしているのですか。

小山：4 園を運営している社会福祉法人です。定期的に理事や園長を始め職員の方々と建物に関する意見交換をします。それを基に修繕計画や改修計画などを立案し、行政との打ち合わせや工事の監修などを行っています。園児の多様な活動に対応できるように可動の建具や間仕切りを計画するのですが、彼らの好奇心は想像を超えます。可動するものは遊びの対象になりますから金物などの消耗がものすごく早いです。彼らに負けないシンプルなディテールを考えることを楽しんでいます。

小山 貴弘 (こやま たかひろ)

1975年 東京都生まれ  
2000年 芝浦工業大学大学院建設工学専攻修了  
2000年 太宇根建築設計事務所  
2006年 株式会社 コヤマアトリエ設立

2007年～ 芝浦工業大学建築学科非常勤講師  
2006年～ 社会福祉法人豊川保育園 建築コンサルタント  
2009年～ 有限会社ワインワンダーランド 代表取締役  
2009年～ yuru cafe オーナー

受賞

2008年 塗り壁のある風景コンテスト優秀賞 / 門前仲町の家  
2011年 エアスタイルコンテスト優秀賞 / 熱海の家



小山貴弘氏

— 大学でも教鞭をとられていますね。

小山：芝浦工業大学で住宅の設計演習を非常勤講師として担当しています。今年で 11 年目ですから関わった学生が同じ業界で活躍しています。先日、辰の現場監督の中に授業で関わった方がいて、再会しました。一緒に食事をすることも恵まれ、思いがけず楽しい時間を過ごしました。

— 設計以外の事業もされているのですか。

小山：不動産の取引や企業の顧問なんかをしています。建築の設計では、あらゆる条件をかたちに統合するために色々なアイデアを試しながら進めていきます。他業種でもこの思考の方法が有効であることがあり、プロジェクトを立ち上げる段階で相談を受ける機会が多く、様々な方々との関わりが増えています。かつては、妻がソムリエということもあり、ワインショップやカフェを経営していました。現在は信頼しているスタッフに会社を譲渡しており、彼らのお店として継続しています。こう話していると、設計事務所ではないように思われることが多いのですが、私としては建築的思考の方法を使った活動なので、違和感なくできています。建築を学んだ人の職域はどんどん広がっていくように感じています。

建築は、長寿命化を考えた設計がなされたハードと、残したいと思う人の気持ち、つまりそこにある意味の両方がないと残らないものです。伊勢神宮は記号(そこにある意味)だけが残っています。長い時間軸で建築の在り方を考える必要があります。相続対策目的の建物もそうです。残される側は、「ちゃんとしたものでないと、もらっても」ということがあります。作り手の責任は重いです。ハードとソフトの両方にアプローチすることを大切にしていきたいと考えています。

— 本日は、どうもありがとうございました。



熱海の家 外観



熱海の家 内観



駒込の共同住宅 テラス



駒込の共同住宅 外観



駒込の共同住宅 デテール

## 「TIERS」が『IDA Award 2017 年銅賞』を受賞しました。

田邊曜氏設計、弊社施工の荒川技研工業のショールーム「TIERS」が、アメリカのデザイン賞を受賞しました。

「IDA (Internationa Design Award)」は、アメリカでも有数のデザイン賞の一つで、建築、インテリア、プロダクト、グラフィック、ファッションデザインの5部門を設けています。伝統的なデザインのビジョンを認めながら、新たな才能の発掘に意欲を持ち、2007年より Farmani Group が創設しました。第11回を迎えています。



AWARD : IDA 2017 , BRONZE  
WINNING COMPANY :  
ARAKAWA & Co., Ltd  
WINNING DESIGNER :  
Hikalu Tanabe  
CATEGORY : Architecture -  
Architectural Lighting  
PROJECT NAME : Tiers

## 「Peak Cottage」が『新建築住宅特集 2018 年5月号』に掲載されました。

都心の傾斜地に建つ住宅です。  
3階の妻からブリッジで斜面上方の私道へアクセスしています。

構造 : RC造  
規模 : 地上2階  
用途 : 専用住宅  
設計・監理 :  
北山恒 / architecture WORKSHOP  
竣工 : 2017年8月

## 「K Residence」が『I'm home 2018 July no.94』に掲載されました。

元麻布の閑静な住宅街に建ったモダンな住宅が、上質なアイランド型キッチンを中心に紹介されています。

構造 : RC造  
規模 : 地上3階  
用途 : 専用住宅  
設計・監理 : 横堀健一・コマタモトコ  
/ 横堀建築設計事務所  
竣工 : 2017年12月

## 「(仮称) 三田の集合住宅新築工事」

地鎮祭 2018年5月13日



設計者様のご家族の住居及び賃貸住宅です。

構造 : RC造  
規模 : 地下1階、地上7階  
用途 : 共同住宅  
設計・監理 : ihrmk  
完成予定 : 2019年5月

## 「(仮称) K-house 新築工事」

着工式 2018年5月16日



三軒茶屋で台湾茶をお出しする茶芸館とオーナー住居を施工させて頂きます。

構造 : RC造  
規模 : 地上3階  
用途 : 専用住宅・飲食店舗  
設計・監理 : 保田佳美 / インクス  
完成予定 : 2018年12月

## 「(仮称) 代沢プロジェクト新築工事」

上棟式 2018年5月22日



風薫る5月、気持ちがいい上棟になりました。

構造 : RC造 + S造  
規模 : 地下1階、地上3階  
用途 : 専用住宅  
設計・監理 : マウントフジアーキテクツ  
完成予定 : 2018年8月

## 「(仮称) 神宮前3丁目プロジェクト新築工事」

地鎮祭 2018年5月24日



五月晴れの下、新入社員も参加させて頂き地鎮祭を行いました。オーナーの期待を超える建物を施工します。

構造 : S造  
規模 : 地下1階、地上2階  
用途 : 物販業を営む店舗  
設計・監理 : 吉國建築設計事務所  
完成予定 : 2018年11月

## 「(仮称) 神宮前6丁目プロジェクト新築工事」

地鎮祭 2018年5月28日



明治通りと表参道の交差点近くに、店舗・事務所併用住宅が建ち上がります。

構造 : RC造  
規模 : 地上5階  
用途 : 専用住宅・店舗・事務所  
設計・監理 : 山下真平建築設計事務所  
完成予定 : 2018年12月

## 編集後記

・レンガの魅力は語り尽くせないようです。ちょうど以前施工させていただいた物件のメンテナンスで、年月を経たレンガにお客様が満足されているお話を聞き、長い年月でその実力が出てくるものだなと感じました。

(株)辰通信 Vol.219 発行日 2018年6月10日 編集人: 松村典子 発行人: 森村和男  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450  
E-mail : daihyo@esna.co.jp URL : http://www.esna.co.jp

「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。バックナンバーも掲載しています。  
<http://www.esna.co.jp/shinclub>  
スマホはこちらから →

